2026-2027年度
災害中間支援・実動人材
育成および総合訓練



「善意のボランティア」から
「有事即応の公的インフラ」へ。
埼玉版FEMAの実効性を
総合検証する6ステップ。

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

すぎとSOTOクラブ

彩の国会議 埼玉県災害ボランティア団体ネットワーク 認定団体

Gemini Notebook

災害支援のパラダイムシフト：機能する「仕組み」への転換

これまでの課題



・マンパワー不足



・連携の不在・重複



・情報の断絶



・善意への無償依存
（ボランティア・フリーライド）

本事業で目指す姿



・多様な主体がつながる



・誰一人取り残さない



・平時から機能する
持続可能な支援体制
（埼玉版FEMA）

日本の災害支援の新しいスタンダードを、埼玉から。

Gemini Notebook

【体制整備】 データでつなぎ、災害時に即座に動ける支援体制へ

災害時に即座に動く！
14分野の専門支援リソースDBと kintoneによるリアルタイム連携

専門支援リソースをデジタル化・可視化し、
必要な支援を、必要な人へ、最短で届ける仕組みを構築します。



杉戸町専任チーム（5名体制）が中核を担う

コーディネート	情報管理	資源調整	連携強化	体制維

平時からの情報更新・関係構築・訓練連携により、災害時に即応可能な体制を維持し

14分野の専門支援リソースをデジタル化（DB化・資源シート化）



kintoneでリアルタイムに情報をつなぐ



情報がつながることで、実現できる

スピード
必要な支援を最短でマッチングし、
初動対応を加速

的確性
専門性・エリア・状況に応じた
適切な支援を提供

持続性
平時からの関係構築とデータ更新で
継続的に機能する体制へ

目指す姿

どこで・誰が・何を・どれだけ支援できるかが、ひと目でわかり、すぐに動ける支援ネットワークを実現します。

多様な支援団体・事業者の力を最大限に活用 → 情報の「見える化」で連携の質を向上 → 地域の支援力を高め、災害対応力を底上げ

彩の国会議の役割

多様な主体をつなぐハブとして、
持続可能で強靭な支援体制を構築します。



【人材育成】　学び、つながり、現場を動かすリーダーを育成

地域防災の要を育てる「専門分野別リーダーズ研修」が始動！

専門スタッフによる研修で、各分野のリーダーの
リテラシーを底上げし、連携の濃淡を平均化する



- **専門性の向上**　各分野の最新知識・スキルを習得
- **リーダーシップ強化**　チームをまとめ、動かす力を養成
- **連携力の向上**　分野横断の対話と協働を促進
- **地域防災力の底上げ**　持続可能な支援体制の中核人材を育成

対象者

各分野の団体・組織から
推薦されたリーダー候補者

- NPO／ボランティア団体
- 行政・社協関係者
- 企業・専門職団体
- 地域の実務担当者　など

研修内容（例）

- **基礎知識の習得**　災害支援の全体像と各分野の役割理解
- **ケーススタディ・演習**　実践的な事例検討と課題解決演習
- **コミュニケーション・合意形成**　多様な主体と協働するための対話力強化
- **実践計画の策定**　自分の組織・地域でのアクションプラン作成

研修スケジュール（全3回）

第1回 8月	第2回 9月	第3回 12月
基礎力強化編	連携力強化編	実践力強化編
災害支援の基礎と各分野の役割理解	分野横断の連携と協働の実践力向上	実働に向けた計画策定とリーダーとしての実践

分野横断でつながるリーダーへ

期待される効果

- 分野間の理解が深まり、連携の質が向上
- 顔の見える関係が築かれ いざという時に動ける
- 地域全体の防災・減災力 着実に底上げ
- 継続的な学びと実践のサイクルを構築

一人ひとりの学びが、地域の力になる。ともに、強く、しなやかな支援体制へ。

目指す姿　専門性と連携力を兼ね備えたリーダー
各地域で支援の要として活躍する未来へ

【想定訓練】 実践的な訓練で、災害時の課題を見える化し、次の一手へ

目詰まりを防げ！
日本総研監修「埼玉版FEMA」連動型・
被災想定訓練の裏側

日本総合研究所の監修のもと、埼玉版FEMAと連動した実践的な訓練を実施。
技術系実働訓練から大規模指揮訓練まで、段階的にステップアップし、
官民の連携における「目詰まり」を可視化・検証します。



段階的な訓練で、実践力と連携力を底上げ

第1ステップ
技術系実働訓練①
10月 | 川越市



現場対応力の強化
初動連携の実践

第2ステップ
技術系実働訓練②
11月 | 上尾市



多機関連携の検証
課題の抽出・共有

第3ステップ（集大成）
指揮訓練（大規模）
2月 | 杉戸町



14分野を網羅した大規模な指揮訓練
全体最適の意思決定訓練

14分野の連携を検証

- 医療・保健・福祉
- 食料・物資
- 住まい・生活支援
- 防災・安全管理
- 心理・メンタルヘルス
- 子ども・教育
- 法律・行政支援
- 法務・権利支援
- 環境・衛生
- 情報・通信
- 交通・物流
- 障がい者支援
- 高齢者・介護

訓練の特徴

実災害を想定したリアルなシナリオ
複合災害・広域被災を想定し
現実に即した状況を再現。

埼玉版FEMAと連動
意思決定プロセスを標準化し
官民連携の精度を向上。

課題の可視化と改善
目詰まりを特定し、
具体的な改善策につなげる。

次の災害に備える力へ
訓練を繰り返し、持続的に
レベルアップ。

目指す姿

どんな災害でも、支援が途切れない埼玉へ

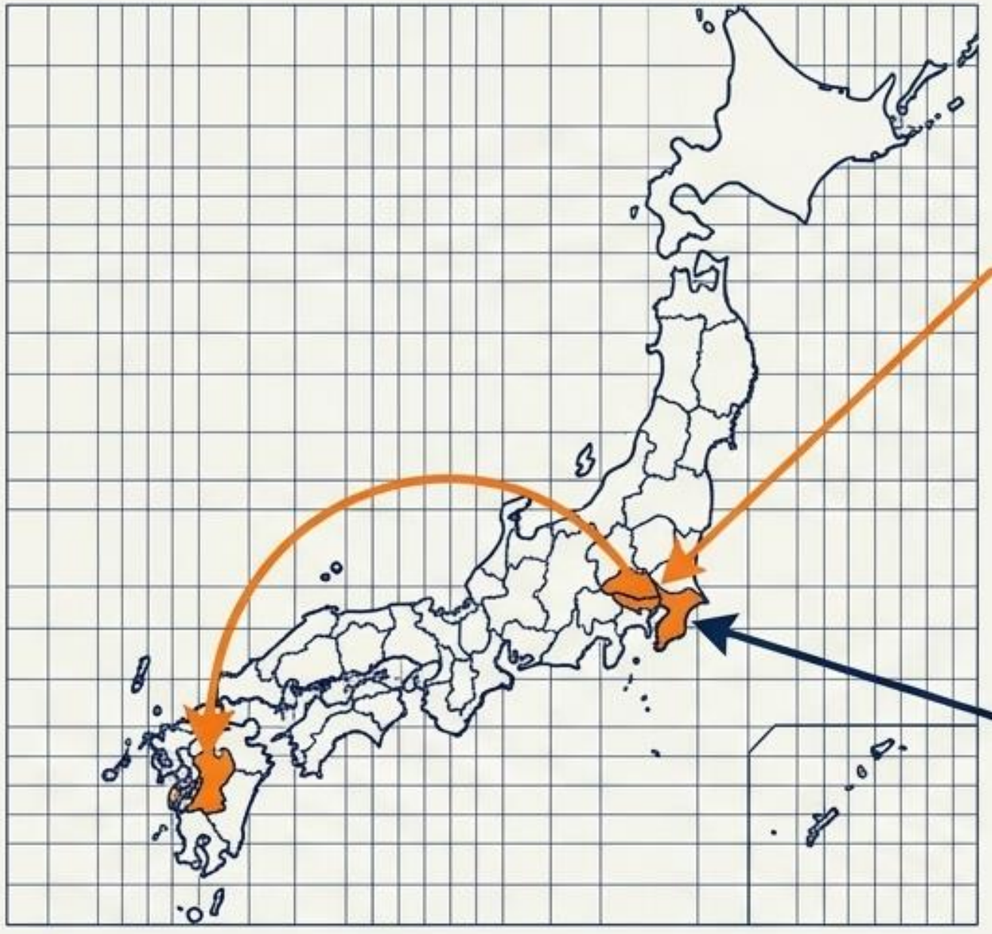
官民がつながる ▶ 目詰まりを防ぐ ▶ 迅速・的確に支援が届く ▶ 誰一人取り残さない支援体制の実現

期待する効果

- 支援の遅れや重複を防ぎ、限られた資源を最適に活用
- 現場と本部の認識を統一し、迅速な意思決定を実現
- 多様な主体の連携力を高め、持続可能な支援体制へ



平時の知見を有事の実働へ：広域被災地派遣の実績



熊本地震支援

2026年の前半は、熊本地震支援で、現地に２回輸送隊を派遣。
水と食料の迅速な提供を実現。



千葉豪雨支援

千葉豪雨では、先遣リエゾンを合計30日派遣。
受援側との調整および無駄のない支援インフラを構築。

訓練で終わらせない。平時のネットワークを即座に
「30日間実動モデル」へ転換する応援体制がすでに稼働。

Gemini Notebook

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

日本財団助成事業／埼玉県災害ボランティア団体ネットワーク「彩の国会議」
災害中間支援・実動人材育成および総合訓練

つながる力で
地域を強くする。



2026-2027年度

災害中間支援・実動人材育成および総合訓練

能登の教訓を、埼玉の力に。そして、次の災害に備える。

全6ステップ ロードマップ

1 2026.11.1 (日)

リーダー研修①
現場安全規律・KY基礎

2 2026.11.22 (日)

リーダー研修②
都市防災 × 多様性配慮 × 障害者

3 2026.12.12 (土)


リーダー研修③
ICS現場指揮・専門トリアージ

4 2026.12.26 (土)

技術実動①
座学安全 & 屋外実動（重機連携）

5 2027.1.24 (日)

技術実動②
災害関連死防止 & 災害福祉ワーク

6 2027.2.5 (金) ～ 2.6 (土)

総合訓練
第14回 協働型災害訓練 in 杉戸（総合演習）

会場＋オンライン（ハイブリッド）

主催
彩の国会議
埼玉県災害ボランティア団体ネットワーク

すぎとSOHOクラブ
特定非営利活動法人

協働型災害訓練
一般社団法人
Collaborative Disaster Training (CDT)

共催・連携
日本保健医療大学、市民キャビネット、
認定NPO法人市民福祉団体全国協議会（市民協） ほか

【総合訓練】埼玉版FEMA・官民学連携総仕上げ in 杉戸



Day 1 知見共有・官民学対話

国・研究機関・大学・DX最前線の
知見共有と合同トークセッション。



- 行政
- 大学
- 研究機関
- DX・IT

Day 2 埼玉版FEMA連動型実動

中庭での倒壊家屋救助（進入・障害物除去）と、
対策本部での14分野専門ユニット・様式4運用を
リアルタイムで同期させる連動演習。



- 14分野 専門ユニット
- 様式4運用
- リアルタイム 連動
- 現場と対策本部 の一体運用

日時 2027年2月5日(金)～6日(土)
両日とも すぎとピア開催（オンライン併用）

会場 すぎとピア
（彩の国いきいきセンターすぎとピア）

SAITAMA

これまでの研修成果を結集した大規模総合訓練（埼玉版FEMA実証）。

第14回

協働型災害訓練 in 杉戸

つながる力で地域を強くする。

埼玉版FEMA連動型・被災想定訓練

日本財団2026年度つなぐチームで実現する被災者支援体制と実践的訓練採択事業
埼玉県災害ボランティア団体ネットワーク「彩の国会議」
2026年度第3回定例会（中央研修）



日時

2027年 2月5日（金） 9:00〜17:00
2027年 2月6日（土） 9:00〜16:00

場所

① 彩の国いきいきセンター すぎとピア
（〒345-0024 埼玉県北葛飾郡杉戸町堤根4742-1）
② zoom（オンライン）

多様な主体がつながることで、地域はもっと強くなる！





第14回 協働型災害訓練 in 杉戸

つながる力で
地域を強くする。

合同
トークセッション

国・研究・大学・DX・地域がつながる
被災者支援の未来

～多様な知見で考える、
次の災害に備える地域の姿～



内閣府	防災科研	東京大学	サイボウズ	内閣府
南 孝徳 氏	取出 新吾 氏	沼田 宗純 氏	柴田 哲史 氏	黒濱 綾子 氏
内閣府 政策統括官（防災担当）付 参事官（避難支援担当）	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	東京大学 生産技術研究所 准教授	サイボウズ株式会社 災害支援チームリーダー	内閣府 政策統括官（防災担当） 参事官（防災計画担当）

2027年2月5日（金）
16:05～17:05（60分）



会　場
すぎとピア
（埼玉県北葛飾郡杉戸町堤根4742-1）

オンライン
Zoom同時配信
（全国どこからでも参加可能）



第14回 協働型災害訓練 in 杉戸　2027年2月5日（金）・6日（土）開催

オンライン同時配信（Zoom）

米軍消防式ICS×倒壊家屋救助×15分野専門ユニットが無線で完全連動！

第14回 協働型災害訓練 in杉戸

つながる力で
地域を強くする。

2日目、埼玉版FEMAの実効性を問う総合実動訓練を実施

～首都直下地震を想定：机上対策本部と過酷な現場救助をリアルタイム中継【オンライン同時配信】～



統括指導
熊丸 由布治 氏
元米軍消防・ベアーズプランニング代表



統括指導
竹田 元生 氏
株式会社wave1 代表取締役



机上対策本部×現場救助を
リアルタイムで連携

だから、命を救え

第1部 9:10～10:40
机上演習：
米軍消防式ICS基礎 &
県各課リエゾン初動演習
熊丸 由布治 氏

第2部・前編 10:50～11:50
机上演習：
受援調整 &
複合ニーズスクリーニング
竹田 元生 氏

第2部・後編 12:50～14:50
実動×机上連動演習：
埼玉版FEMA総合実動
(120分連動演習)
熊丸 由布治 氏 × 竹田 元生 氏

第3部 15:05～16:05
全体討議：
災害時業務改善
セッション

修了証授与式 16:35～16:5
災害時認定リーダー
修了証授与式

開催日時
2027年 2月5日(金) 9:00～18:00 ／ 2月6日(土) 9:00～17:30
第1日目 知見共有と官民学対話（特別セッション 13:20～） 第2日目 実動訓練（9:00～17:30）
2日間通し参加・1日単日参加・取材も可能です

会場
彩の国いきいきセンター
すぎとピア
（埼玉県北葛飾郡杉戸町堤根4742-1）



オンライン
Zoomオンライン配信併用
（全国同時配信・ハイブリッド開催）

Peati
受付

第14回

協働型災害訓練 in 杉戸

つながる力で地域を強くする。

埼玉版FEMA連動型・被災想定訓練



Peatix

チケット販売開始!

災害時、
一人ひとりの力をつなぎ、
災害に強い地域づくりを
一緒に進めましょう。



開催日時
2月5日(金) 9:00~17:30
2月6日(土) 9:00~17:00

開催場所
彩の国いきいき
センターすぎとピア
〒345-0024 埼玉県北葛飾郡
杉戸町堤根4742-1

オンライン
zoom

特定非営利活動法人
すぎとSOHOクラブ

一般社団法人
協働型災害訓練
(CDT)

埼玉県災害ボランティア
団体ネットワーク
「彩の国会議」

「善意のボランティア」から「公的インフラ」へ！

埼玉版FEMAと民間危機管理監が目指す未来

目指すのは！
公的インフラ
としての支援体制へ

災害支援を“善意まかせ”から“機能する仕組み”へ。
ボランティア・フリーライド（無償依存）の構造を打破し、
誰一人取り残さない、持続可能な支援体制をつくる。



これまでの課題

善意のボランティアに
依存する構造

- マンパワー不足
- 連携の不在・重複
- 情報の断絶
- 持続性の欠如

本事業で目指す姿

多様な主体がつながり、
平時から機能する支援体制へ

行政 ― 社会福祉協議会 ― つなぐチーム ― NPO ― 地域・市民

平時からつながり、災害時に機能する支援体制へ

中長期目標

日本の災害支援の新しいスタンダードを、埼玉から。
誰もが安心できる地域と社会の実現へ。

5カ年戦略ロードマップ
(2026 - 2030年)

つながる力で、地域のいのちと暮らしを守る

—— 自走化・制度化に向けた、埼玉発の公的インフラづくり ——





2026年

【モデル構築】

川越・東松山・比企 等
15分野再編とFEMA連携訓練の開始



2027年

【広域展開】

利根地域
大規模氾濫・広域避難モデル、
地縁組織との融合



2028年

【孤立対策】

秩父地域
中山間地の集落孤立対策、
モバイル支援ネットワーク化



2029年

【標準化】

埼玉県全域
「彩の国モデル」標準マニュアル
完成と全県展開



2030年

【制度化・継承】

自走化／県との常設連携協定、
民間危機管理監の
「公的インフラ化」

提言

県域ネットワークに継続的な公的財源を

収益化が難しい公共的な機能を
民間助成だけで支え続けるには限界がある

2030年度末までに

防災庁による県域ネットワークへの
継続的な助成制度を整備する



写真は生成したイメージ

日本財団に求める役割

政策提言・ロビー活動を進め、予算確保と必要な法制化を主導する

民間助成で育てた仕組みを、公的制度へつなぐ。

一人ひとりの学びが、地域の力になる。

ともに、強く、しなやかな支援体制（埼玉版FEMA）を実現しましょう。皆様のご参加をお待ちしております。



【募集要項】

- 対象：NPO/ボランティア団体リーダー、自治体・社協職員、企業担当者
- 参加費：無料（日本財団助成事業）

【お問い合わせ・お申し込み】

主催：埼玉県災害ボランティア団体ネットワーク「彩の国会議」
事務局：特定非営利活動法人すぎとSOHOクラブ
TEL: 0480-31-0055 / E-mail: sugitosohoclub@gmail.com

Gemini Notebook